

中学歴史プリント（過去問類似）

戦国時代

名前

得点

/9

問1 戦国大名の本拠地として発達した「城下町」の形成と役割について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 大阪公立入試 類似）

1. 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住まわせ、政治・軍事・経済の拠点とした。
2. 戦乱による被害を避けるため、城の周囲には武士のみを住まわせ、商人には立ち入りを禁じた。
3. 農民が武器を持って城下町に集まることを推奨し、有事の際の防衛力を高めた。
4. 海外との貿易を独占するため、すべての城下町は海岸沿いの港町に隣接して造られた。

問2 室町時代後半に見られた、実力で上の身分の者を圧倒する社会的な風潮の中で、それまでの守護に代わって台頭した勢力があります。自らの力で領地を拡大し、独自の法律である「分国法」などを定めて領国を支配したこれらの勢力を何と呼びますか。（2020年 千葉県公立入試 類似）

1. 守護大名
2. 戦国大名
3. 地頭
4. 御家人

問3 応仁の乱ののち、各地に登場した戦国大名が、自らの領内の武士や農民の行動を厳しく取り締まり、領地の安定と統治を強めるために独自に制定した法律を何といいますか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 御成敗式目
2. 分国法
3. 武家諸法度
4. 公事方御定書

問4 16世紀の戦国時代、室町幕府の権威が衰退する中で、各地の実力者である戦国大名が自らの領国を独自に統治するために制定した法律を何というか、名称を答えなさい。（2017年 茨城県公立入試 類似）

1. 分国法
2. 公事方御定書
3. 壺田永年私財法
4. 御成敗式目

問5 南蛮貿易によってもたらされた鉄砲と、当時の都市の関わりについて述べた文として、背景や理由を含めて正しく説明しているものはどれですか。（2020年 群馬県公立入試 類似）

1. 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された
2. 鉄砲の製造に必要な火薬の原料が国内で豊富に採れたため、城下町ごとに小規模な自給自足の生産体制が整った
3. 江戸幕府の成立まで鉄砲の国内生産は禁止されていたため、長崎の出島を通じてのみ取引が行われた
4. 寺院が鉄砲の製造を独占したため、鉄砲の生産拠点となった都市では宗教勢力による支配が強まった

問6 戦国大名の武田晴信（信玄）が定めた「甲州法度之次第」のように、大名が独自に法を定めた背景を説明した次の文の（ ）に当てはまる語句を答えなさい。「戦国大名は、幕府の法が及ばなくなった自分の（ ）において、家臣の勝手な婚姻を制限したり、領民を管理したりすることで支配を強化しようとした。」（2023年 山口公立入試 類似）

1. 領国
2. 幕領
3. 藩
4. 荘園

問7 戦国時代の社会的な特徴の一つである「下剋上」という現象について、その内容を正しく説明しているものはどれですか。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 実力のある者が、それまで自分より上の身分であった者の地位を奪い取る
2. 天皇を中心とした政治体制を復活させるために、幕府を倒そうとすること
3. 農民や地侍が団結して、領主に對して年貢の減免などを要求すること
4. 武士が自分の土地を直接支配するために、公家に土地を返還させること

問8 日本の戦国時代に相当する16世紀、ヨーロッパではキリスト教のあり方をめぐって大きな動きがありました。カトリック教会の腐敗を批判し、聖書を信仰のよりどころとする「宗教改革」を始めた人物は誰ですか。（2023年 栃木県公立入試 類似）

1. ルター
2. ワシントン
3. ナポレオン
4. クビライ・ハン

問9 戦国大名が定めた法律の内容に多く見られる、「家臣同士が私的な争いを起こした場合、その理由の正当性を問わず、双方とも処罰する」という原則を何と呼びますか。（2020年 佐賀公立入試 類似）

1. 喧嘩両成敗
2. 連座（縁座）
3. 目目安箱
4. 奉公と恩賞

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住ませ、政治・軍事・経済の拠点とした。	戦国大名は、それまで各地の領地に散らばっていた家臣を城の周囲に集住させることで、軍事的な動員を容易にし、統制を強めました。また、商工業者も呼び寄せることで、武器の製造や物資の流通を活発化させ、領国の経済を発展させました。これが後の近世都市の原型となりました。
問2	答え 2 戦国大名	下剋上の風潮によって、幕府から任命された守護の地位を奪ったり、地域の有力な武士が実力をつけたりすることで新しい支配者が現れました。彼らは自らの力で領国内の家臣や農民を統制し、他の地域と争いながら勢力を広めました。
問3	答え 2 分国法	室町幕府の権威が衰えた戦国時代、各地の戦国大名は実力で領地を支配する必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の原則などを盛り込んだ独自の法を定め、領国内の秩序を維持しようとした。鎌倉時代の御成敗式目や、江戸時代の武家諸法度とは制定された時代や目的が異なります。
問4	答え 1 分国法	戦国時代、守護大名に代わって実力で領地を支配した戦国大名は、家臣の統制や領国内の治安維持、年貢の徴収などを目的として独自の法を定めました。これは大名の支配権が及ぶ「分国（領国）」にのみ適用されたため、このように呼ばれます。選択肢にある御成敗式目は鎌倉時代、墾田永年私財法は奈良時代、公事方御定書は江戸時代のものです。
問5	答え 1 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された	堺は古くから鋳物や刀剣の製造が盛んであり、その高い技術力が鉄砲の量産を支えました。また、堺は「会合衆」と呼ばれる豪商たちによる自治が行われていた自由都市であり、特定の戦国大名に完全に支配されることなく、各地の大名を顧客として鉄砲を販売することで大きな利益を上げ、さらに都市として発展しました。
問6	答え 1 領国	戦国大名が直接支配を及ぼした範囲は「領国」と呼ばれます。江戸時代の「藩」や、中世の貴族・寺社の土地である「荘園」とは区別されます。分国法は、この領国内でのルールを明確にすることで、大名の権威を確立し、富国强兵を進めるための重要な手段でした。
問7	答え 1 実力のある者が、それまで自分より上の身分であった者の地位を奪い取ること	下剋上は、中世から近世へと社会が激変する過程で現れた「実力主義」を象徴する動きです。それまでの家柄や伝統的な上下関係よりも、軍事力や経済力、政治的な手腕が重視されました。これによって、出自が低くても能力があれば一国の主（戦国大名）になれる道が開かれ、織田信長や豊臣秀吉のように、古い権威に縛られない新しい統治を行う勢力が登場する土壌となりました。
問8	答え 1 ルター	16世紀のドイツにおいて、神学教授であったルターは、カトリック教会が教会の改築資金を集めるために免罪符（贖宥状）を販売していることを批判しました。これが宗教改革の始まりとなり、後にプロテスタントと呼ばれる新しい宗派が生まれるきっかけとなりました。同時期の日本は室町時代末期から安土桃山時代にあたる戦国時代でした。
問9	答え 1 喧嘩両成敗	戦国大名にとって、領国内の家臣同士が私的な理由で武力衝突を起こすことは、領土の防衛力を低下させる大きなリスクでした。そのため、個別の事情に関わらず争いそのものを厳禁し、大名による一元的な裁判権を確立するためにこの原則が多くに分国法に盛り込まれました。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 下剋上	室町時代の中期から戦国時代にかけて、それまでの身分秩序が崩れ、実力主義の時代へと移行したことを示す言葉です。この風潮によって、守護代や国人といった下の立場にいた者が、主君である守護大名に代わって戦国大名として台頭する動きが加速しました。背景には、幕府の統制力の低下と、土地や民衆を直接支配しようとする実力重視の価値観の広がりがあります。
問2	答え 1 1549年に鹿児島へ上陸し、キリスト教の布教を始めた。	ザビエルは1549年に鹿児島に上陸して布教を開始しました。織田信長と会見して京都での布教を許されたのはルイス＝フロイスらであり、少年使節の派遣を勧めたのはヴァリニャーノです。また、鉄砲を伝えたのは1543年に種子島に漂着したポルトガル人商人であり、宣教師ではありません。
問3	答え 1 1543年に伝えられたこの兵器は、集団戦法への転換を促し、防御力の高い城郭の構造などにも大きな影響を与えた。	1543年（16世紀）に種子島へ鉄砲が伝来したことで、それまでの騎馬戦から足軽による集団戦法へと戦術が大きく変化しました。また、鉄砲の威力に対抗するために、石垣を高く積み上げた堅固な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面で社会に劇的な変革をもたらしました。
問4	答え 1 家臣が独自の軍事力を持つことを抑え、大名による領国支配を強化すること	戦国大名は分国法を通じて、家臣たちの勝手な行動を厳しく制限しました。朝倉氏の事例のように、居城以外の城（支城）を勝手に持たせないようにすることは、家臣が独立した勢力になることを防ぎ、大名の支配下に置くという目的がありました。このように、大名への忠誠を誓わせ、領国内の秩序を保つことが分国法の大きな目的です。
問5	答え 1 家臣たちが実力で主君をしのぐ下剋上の動きを抑え、領内の秩序を維持するために制定された。	戦国大名は、実力至上主義による下剋上が自分の身に及ぶことを防ぐ必要がありました。そのため、家臣間の私闘を禁じ、大名の裁決に従わせることで領国支配を安定させようと分国法を制定しました。一揆はむしろ大名が警戒し、鎮圧すべき対象でした。
問6	答え 1 戦い方が騎馬による一騎打ちから、足軽による集団戦へと変化し、城の構造も強固な石垣を持つものへと変化した。	1543年に種子島に伝わった鉄砲（火縄銃）は、戦国時代の合戦のあり方を根本から変えました。それまでの騎馬戦中心から、訓練された足軽による集団戦が主流となり、織田信長などの有力大名がこれを活用して全国統一を進めました。また、鉄砲の威力に対抗するため、城は高い石垣や堀を備えた大規模なものへと進化しました。
問7	答え 1 イエズス会 — フランシスコ・ザビエル	16世紀のヨーロッパでは宗教改革が起こり、それに対抗する形でカトリック側は自己改革と海外布教を推進した。その中心的な組織がイエズス会であり、創立メンバーの一人であるフランシスコ・ザビエルが日本にキリスト教を伝えた。ルイス・フロイスは織田信長と交流し『日本史』を記した人物であり、ヴァリニャーノは天正遣欧少年使節の派遣を指導した宣教師であるため区別が必要である。
問8	答え 2 下剋上の世において、家臣同士の私的な争いを禁じ、領国内の秩序を安定させて支配力を強めるため。	戦国時代、家臣同士の武力衝突は領国の弱体化につながるため、戦国大名は「喧嘩両成敗」などの規定を盛り込んだ分国法を定め、私闘を禁じました。自らの領地を「一国」として独立して統治しようとする大名の姿勢が、この法の制定に表れています。選択肢にある徳川氏による大名統制は江戸時代の武家諸法度、判例の整理は江戸中期の公事方御定書の説明です。

問1 16世紀の記録において「長さ二、三尺の筒状の道具で、火を放つと雷のような音がする」と描写された武器が、日本の築城技術に与えた影響として正しいものはどれですか。（2017年 神奈川県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。 | 2. 鉄砲の重さに耐えられるよう、城の主要な構造物がすべて巨大な岩石のみで作られるようになった。 | 3. 鉄砲の射程距離を避けるために、城はすべて人里離れた険しい山頂にのみ築かれるようになった。 | 4. 鉄砲による火災を防ぐため、城の周囲に広大な水堀を作るのをやめ、空堀が主流となった。 |
|--|--|---|--|

問2 南蛮貿易によってもたらされた鉄砲と、当時の都市の関わりについて述べた文として、背景や理由を含めて正しく説明しているものはどれですか。（2020年 群馬県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された | 2. 鉄砲の製造に必要な火薬の原料が国内で豊富に採れたため、城下町ごとに小規模な自給自足の生産体制が整った | 3. 江戸幕府の成立まで鉄砲の国内生産は禁止されていたため、長崎の出島を通じてのみ取引が行われた | 4. 寺院が鉄砲の製造を独占したため、鉄砲の生産拠点となった都市では宗教勢力による支配が強まった |
|--|---|--|--|

問3 16世紀半ば、種子島にポルトガル人を乗せた船が漂着し、日本に新しい兵器が伝えられた出来事について、その後の歴史に与えた影響として最も適切な説明はどれですか。（2020年 京都公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 1543年に伝えられたこの兵器は、集団戦法への転換を促し、防御力の高い城郭の構造などにも大きな影響を与えた。 | 2. この兵器の伝来により、騎馬武者が名乗りを上げて一対一で戦う伝統的な戦術がより一層重視されるようになった。 | 3. この兵器は朱印船貿易が最も盛んだった江戸時代初期に初めて日本にもたらされ、幕府の軍事力を支えた。 | 4. この兵器は元軍が日本に襲来した際に初めて伝えられたもので、鎌倉幕府が滅亡する直接の原因となった。 |
|---|---|---|---|

問4 日本地図において、中国地方の日本海側に面した島根県に所在し、かつて「灰吹法」という技術を導入して生産量を飛躍的に高めた銀山を次の中から選びなさい。（2016年 鳥取公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 石見銀山 | 2. 足尾銅山 | 3. 生野銀山 | 4. 富岡製糸場 |
|---------|---------|---------|----------|

問5 戦国時代において、武田氏や今川氏などの戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を直接支配するために独自に制定した法律を何というか。（2021年 京都公立入試 類似）

- | | | | |
|--------|----------|----------|----------|
| 1. 分国法 | 2. 武家諸法度 | 3. 公家諸法度 | 4. 御成敗式目 |
|--------|----------|----------|----------|

問6 将軍のあとつぎ問題などを原因として1467年に発生し、約11年間にわたって続いた戦乱は、幕府の力を決定的に弱め、社会全体に「下剋上」の風潮を広める大きな契機となりました。この戦乱の名称を選びなさい。（2020年 千葉県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 1. 承久の乱 | 2. 観応の擾乱 | 3. 応仁の乱 | 4. 島原の乱 |
|---------|----------|---------|---------|

問7 石見銀山から産出された銀は、16世紀後半から17世紀初めにかけて世界の銀産出量の約3分の1を占めていたとも言われています。この銀山で生産を支え、日本の銀が国際社会へ大きな影響を与える要因となった技術的背景として正しいものを選んでください。（2019年 和歌山公立入試 類似）

- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|---|--|
| 1. 灰吹法という、鉛を用いて銀を抽出する高度な精錬技術が導入されたこと | 2. たたら吹きという、鉄を精錬するための日本独自の製鉄法が応用されたこと | 3. 明治維新以降、フランスの技術を取り入れた官営模範工場として整備されたこと | 4. 足尾銅山鉱毒事件を教訓にした、公害を出さない最新の濾過技術が開発されたこと |
|--------------------------------------|---------------------------------------|---|--|

問8 「甲州法度之次第」と呼ばれる分国法を制定し、領国内の統治を強化した戦国大名は誰か。（2021年 沖縄公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 織田信長 | 2. 上杉謙信 | 3. 足利義満 | 4. 武田信玄 |
|---------|---------|---------|---------|

問9 16世紀に起きた「ルターによる宗教改革の開始」「イエズス会の設立」「フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来」という3つの出来事について、時期の早いものから順に正しく並べたものはどれですか。（2020年 長野県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. ルターによる宗教改革の開始 → イエズス会の設立 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 | 2. イエズス会の設立 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 → ルターによる宗教改革の開始 | 3. フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 → ルターによる宗教改革の開始 → イエズス会の設立 | 4. ルターによる宗教改革の開始 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来 → イエズス会の設立 |
|---|---|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。	鉄砲の普及は、城のあり方を大きく変えました。それまでの簡素な「山城」から、鉄砲の攻撃に耐えうる強固な石垣や、敵を迎え撃つための窓（狭間）を持つ天守などを備えた「平城」や「平山城」へと進化しました。これにより、城は軍事拠点としてだけでなく、領主の権威を象徴する政治的中心地としての役割も強めることとなりました。
問2	答え 1 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された	堺は古くから鋳物や刀剣の製造が盛んであり、その高い技術力が鉄砲の量産を支えました。また、堺は「会合衆」と呼ばれる豪商たちによる自治が行われていた自由都市であり、特定の戦国大名に完全に支配されることなく、各地の大名を顧客として鉄砲を販売することで大きな利益を上げ、さらに都市として発展しました。
問3	答え 1 1543年に伝えられたこの兵器は、集団戦法への転換を促し、防御力の高い城郭の構造などにも大きな影響を与えた。	1543年（16世紀）に種子島へ鉄砲が伝来したことで、それまでの騎馬戦から足軽による集団戦法へと戦術が大きく変化しました。また、鉄砲の威力に対抗するために、石垣を高く積み上げた堅固な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面で社会に劇的な変革をもたらしました。
問4	答え 1 石見銀山	石見銀山では、鉛石から銀を取り出す「灰吹法（はいふきほう）」という技術が導入されたことで、生産量が急増しました。兵庫県の生野銀山や、愛媛県に位置し銅を産出した別子銅山などと混同しやすいですが、島根県という立地と、大航海時代の世界経済に影響を与えた規模の大きさが石見銀山の大きな特徴です。
問5	答え 1 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代において、各地の戦国大名が自らの実力で領国を治めるために定めた独自の法を分国法（家法）と呼びます。これによって、大名は幕府の法に縛られることなく、独自のルールで領内を統制しました。
問6	答え 3 応仁の乱	この戦乱によって政治の中心地である京都が荒廃し、将軍や幕府の権威が失墜しました。その結果、地方の武士たちが幕府の指示を仰がずに実力で領地を奪い合うようになり、下剋上の世の中、すなわち戦国時代へと突入していきました。
問7	答え 1 灰吹法という、鉛を用いて銀を抽出する高度な精錬技術が導入されたこと	16世紀前半に博多の商人らによって朝鮮半島から伝えられた灰吹法（はいふきほう）は、鉛を使って鉛石から銀を取り出す画期的な精錬技術でした。この技術が石見銀山に導入されたことで、不純物の少ない高品質な銀の大量生産が可能になり、日本の銀が世界経済において大きな影響力を持つことになりました。選択肢にある「たたら吹き」は鉄、「官営模範工場」は富岡製糸場などに代表される近代化の動きを指します。
問8	答え 4 武田信玄	甲斐（現在の山梨県）を拠点とした武田信玄は、領国支配を確かなものにするため「甲州法度之次第」を定めました。この中には家臣団の統制だけでなく、大名自身の行動を制約する条文も含まれており、領国全体で法による秩序を作ろうとした点が特徴です。
問9	答え 1 ルターによる宗教改革の開始 → イエズス会の設立 → フランシスコ・ザビエルによる日本へのキリスト教伝来	まず1517年にルターがドイツで宗教改革を始めました。これを受けてカトリック側が勢力回復のために1534年にイエズス会を設立しました。そしてその一員であるフランシスコ・ザビエルが1549年に日本の鹿児島へ到着し、キリスト教を伝えました。この時系列は「宗教改革への対抗手段として海外布教が始まった」という因果関係と結びついています。

問1 戦国時代の日本において、全国統一の動きを加速させる要因となった鉄砲について、その伝来の経緯を説明したものとして正しいものはどれか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

- 種子島に漂着したポルトガル人によって、1543年に伝えられた。
- 日明貿易の進展に伴い、日本の商人が中国から直接買い付けて持ち帰った。
- キリスト教の布教を目的としたスペイン人の宣教師によって、平戸で初めて紹介された。
- 元寇の際に、元軍が使用していた「てつほう」を日本側が改良して国産化した。

問2 16世紀半ば、フランシスコ・ザビエルらイエズス会の宣教師が日本を含むアジアなど世界各地へ布教に赴いた歴史的な背景として、最も適切なものはどれですか。（2017年 京都公立入試 類似）

- ヨーロッパで始まった宗教改革に対し、カトリック教会が勢力を立て直そうとしたため
- マルコ・ポーロが『世界の記述（東方見聞録）』で日本を黄金の国と紹介したため
- 十字軍の遠征が失敗し、キリスト教徒が住む場所をアジアに求めたため
- 産業革命によって生産された工業製品を販売する市場を求めていたため

問3 鎌倉時代において、3代執権の北条泰時が「御成敗式目（貞永式目）」を制定した目的や背景を説明したものとして、最も適切な内容を選びなさい。（2015年 岡山公立入試 類似）

- 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と、貴族などの荘園領主との間で土地をめぐる争いが増えたため、公正な裁判の基準を設ける必要があった。
- 今川義元などの戦国大名が分国法を作ったことに対抗し、全国の武士が幕府に対して絶対的な忠誠を誓うための精神的な規範を示す必要があった。
- 元寇（モンゴル襲来）による出兵で困窮した御家人の不満を解消するため、借金を無償で帳消しにする徳政令の仕組みを全国に広める必要があった。
- 平将門の乱を鎮圧した後が生じた関東地方の混乱を抑えるため、貴族の法律である律令を武士にも厳格に適用することを目的とした。

問4 戦国時代において、各地の戦国大名が自らの領国（分国）内の武士や民衆を統制し、領国内の秩序を維持するために独自に制定した法律を何といいますか。（2024年 千葉県公立入試 類似）

- 御成敗式目
- 武家諸法度
- 公事方御定書
- 分国法

問5 ルターが始めた宗教改革において、彼はキリスト教徒が信仰の根拠として最も重視すべきものは何であると主張しましたか。

（2018年 福島県公立入試 類似）

- 聖書
- ローマ教皇の命令
- 免罪符（贖宥状）
- 教会が定めた儀式

問6 戦国時代を象徴する「下剋上」という言葉の意味や背景として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 熊本県公立入試 類似）

- 幕府が守護の権限を強め、地方の国人や農民を厳しく統制しようとしたこと。
- 朝廷が有力な武士に官位を与え、伝統的な身分秩序を維持しようとしたこと。
- 身分の低い者が実力によって上の立場の者を倒し、勢力を拡大させていったこと。
- 農民が団結して自治組織を作り、守護による年貢の取り立てを拒否したこと。

問7 1543年に九州南部の種子島にポルトガル人が漂着した際、日本に初めて伝えられた武器について、その後の歴史に与えた影響として正しいものはどれか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

- 戦い方が騎馬による一騎打ちから、足軽による集団戦へと変化し、城の構造も強固な石垣を持つものへと変化した。
- この武器の輸入を目的として、室町幕府の足利義満によって明との間で勘合貿易が開始された。
- 鎌倉時代にモンゴル帝国が襲来した際、日本の武士が防衛のためにこの武器を組織的に使用して撃退した。
- この武器の伝来をきっかけに、日本独自の武術である剣術や弓術が廃れ、すべての合戦がこの武器のみで行われるようになった。

問8 戦国時代の九州を代表する大名で、現在の府内（大分市）を拠点にキリスト教を保護し、有馬晴信や大村純忠とともにローマ教皇のもとへ「天正遣欧少年使節」を派遣した人物は誰ですか。（2025年 京都公立入試 類似）

- 大友宗麟
- 朝倉義景
- 今川義元
- 北条氏康

問9 戦国大名の朝倉氏が定めた法には、家臣が各自の領地で勝手に城を構えることを禁じ、大名の本拠地に住ませる方針が示されています。このように、大名が家臣を自らの膝元に集住させた目的として、当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。（2023年 広島公立入試 類似）

- 家臣と土地の結びつきを弱めて反乱を防ぎ、軍事・政治的な統制を強化するため
- 家臣を農村に定住させることで、戦時以外は農業に専念させて食料生産を増やすため
- 海外から伝来した鉄砲やキリスト教が、地方の家臣に広まるのを防ぐため
- 家臣を各地の拠点に分散して配置することで、領土の境界線の防衛を固めるため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 種子島に漂着したポルトガル人によって、1543年に伝えられた。	鉄砲は1543年、鹿児島県の種子島に漂着したポルトガル人によって伝えられました。当時の島主であった種子島時堯がこれを買取り、刀鍛冶に命じて国産化を試みたことが、その後の日本国内での普及につながりました。モンゴル襲来時に使用された「てつほう」は火薬を用いた投擲武器であり、火縄銃とは構造が異なります。
問2	答え 1 ヨーロッパで始まった宗教改革に対し、カトリック教会が勢力を立て直そうとしたため	ルターやカルバンによる宗教改革によって、ヨーロッパ内でのカトリック教会の権威が揺らぎました。これに対抗するため、カトリック側は自己改革を行うとともに、イエズス会などの組織を通じて世界各地にキリスト教を広め、教勢を回復しようとする「対抗宗教改革」の動きを強めました。ザビエルの来日もこの一環として位置づけられます。
問3	答え 1 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と、貴族などの荘園領主との間で土地をめぐる争いが増えたため、公正な裁判の基準を設ける必要があった。	1221年の承久の乱によって鎌倉幕府の支配が西日本まで拡大しましたが、その結果、各地で地頭と荘園領主（公家や寺社）との間で土地管理や年貢をめぐる紛争が頻発しました。北条泰時は、武家社会の慣習に基づいた公平な裁判を行うための明確な基準として1232年に御成敗式目を定めました。これは武家独自の最初の法典であり、後の武家政治の大きな手本となりました。徳政令は13世紀末の永仁の徳政令が有名ですが、御成敗式目の制定目的とは異なります。
問4	答え 4 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の大名は自らの実力で領国を治める必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の規定や、年貢に関する取り決めなどを定めた独自の法を制定しました。江戸幕府が制定した「公事方御定書」とは時代背景が異なります。
問5	答え 1 聖書	ルターは、教会の権威や儀式、ローマ教皇の命令よりも、神の言葉が記された「聖書」こそが信仰の唯一のよりどころであると主張しました。彼はラテン語で書かれていた聖書をドイツ語に翻訳し、一般の人々が直接聖書の内容を理解できるように努めました。これは、教会の形式的な教えから脱却しようとする背景から生まれた考え方です。
問6	答え 3 身分の低い者が実力によって上の立場の者を倒し、勢力を拡大させていったこと。	下剋上は、室町時代末期から戦国時代にかけて全国的に見られた現象です。守護代が守護を追放したり、家臣が主君から実権を奪ったりするなど、家柄や伝統よりも個人の実力が重視されるようになり、これにより、各地で戦国大名が台頭し、独自の領国支配を行うきっかけとなりました。
問7	答え 1 戦い方が騎馬による一騎打ちから、足軽による集団戦へと変化し、城の構造も強固な石垣を持つものへと変化した。	1543年に種子島に伝わった鉄砲（火縄銃）は、戦国時代の合戦のあり方を根本から変えました。それまでの騎馬戦中心から、訓練された足軽による集団戦が主流となり、織田信長などの有力大名がこれを活用して全国統一を進めました。また、鉄砲の威力に対抗するため、城は高い石垣や堀を備えた大規模なものへと進化しました。
問8	答え 1 大友宗麟	大友宗麟は豊後（大分県）を本拠地とした有力な戦国大名です。フランシスコ・ザビエルの布教を認めて以降、キリスト教を厚く保護し、海外貿易を積極的に行いました。1582年には、伊東マンショら4人の少年をローマへ派遣する使節の送り主の一人となりました。
問9	答え 1 家臣と土地の結びつきを弱めて反乱を防ぎ、軍事・政治的な統制を強化するため	戦国大名にとって、有力な家臣が自分の領地で独自の勢力を持つことは、裏切りや反乱のリスクを伴いました。そこで、家臣を城下町に強制的に住ませることで、家臣と領地の直接的なつながりを切り離し、大名の監視下に置きました。これにより、大名は軍事力を本拠地に集中させ、より強力な統治体制（大名領国制）を築くことが可能になりました。

問1 16世紀半ば、フランシスコ・ザビエルらイエズス会の宣教師が日本を含むアジアなど世界各地へ布教に赴いた歴史的な背景として、最も適切なものはどれですか。（2017年 京都公立入試 類似）

1. ヨーロッパで始まった宗教改革に対し、カトリック教会が勢力を立て直そうとしたため
2. マルコ・ポーロが『世界の記述（東方見聞録）』で日本を黄金の国と紹介したため
3. 十字軍の遠征が失敗し、キリスト教徒が住む場所をアジアに求めたため
4. 産業革命によって生産された工業製品を販売する市場を求めていたため

問2 大友宗麟をはじめとする有力な戦国大名が、キリスト教を保護し、自らも入信した背景として、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2025年 京都公立入試 類似）

1. 南蛮貿易による利益を得るとともに、軍事的に有利な鉄砲や火薬などの輸入を円滑に進めるため
2. キリスト教の教えを広めることで、反抗的な一向一揆などの仏教勢力を抑え込むため
3. 室町幕府の將軍から、キリスト教を保護することを条件に領地の支配権を認められたため
4. ヨーロッパ諸国の軍隊を日本に呼び寄せ、国内の戦乱を武力で平定させるため

問3 戦国時代、石見銀山などの鉱山開発が各地で盛んに行われた背景として、戦国大名が銀を求めた主な目的について説明したもののとして、最も適切なものはどれですか。（2023年 岐阜公立入試 類似）

1. 鉄砲や火薬などの軍需品を調達する資金や、家臣への恩賞とするため
2. キリスト教の布教活動を支えるための寄付金として活用するため
3. 農村での貨幣経済を禁止し、年貢をすべて銀で納めさせるため
4. 朝廷から高い官位を得るための献上物として独占するため

問4 1543年、九州南方の種子島に漂着した船に乗っていた人々によって、日本に初めて鉄砲が伝えられました。このとき、日本に鉄砲を伝えたのはどこの国の人々ですか。（2014年 沖縄公立入試 類似）

1. ポルトガル人
2. スペイン人
3. オランダ人
4. イギリス人

問5 戦国時代の越前国（現在の福井県）を支配した戦国大名の朝倉氏は、一乗谷を拠点として領国支配を行いました。このように、戦国大名が領国内を独自に統治するために制定した法を何といいますか。（2024年 滋賀公立入試 類似）

1. 分国法
2. 武家諸法度
3. 御成敗式目
4. 建武式目

問6 1549年に現在の鹿児島県にあたる地域へ来航し、日本に初めてキリスト教を伝えた宣教師の名前と、彼が所属していたカトリック教会の組織の組み合わせとして正しいものはどれか。（2020年 沖縄公立入試 類似）

1. フランシスコ・ザビエル（イエズス会）
2. マルコ・ポーロ（東インド会社）
3. ベリー（アメリカ海軍）
4. 鑑真（唐招提寺）

問7 室町幕府が最終的に滅亡を迎えた過程について、1573年に行われた出来事として正しい説明はどれですか。（2018年 静岡公立入試 類似）

1. 織田信長が、対立を深めていた15代將軍の足利義昭を京都から追放した
2. 織田信長が、鉄砲を組織的に用いて長篠の戦いで武田勝頼の軍勢を破った
3. 織田信長が、布教活動を行っていたフランシスコ・ザビエルにキリスト教の保護を約束した
4. 織田信長が、比叡山延暦寺を焼き討ちして宗教勢力の軍事を排除した

問8 戦国時代の社会的な特徴の一つである「下剋上」という現象について、その内容を正しく説明しているものはどれですか。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 実力のある者が、それまで自分より上の身分であった者の地位を奪い取ること
2. 天皇を中心とした政治体制を復活させるために、幕府を倒そうとすること
3. 農民や地侍が団結して、領主に対して年貢の減免などを要求すること
4. 武士が自分の土地を直接支配するために、公家に土地を返還させること

問9 室町時代後半に見られた、実力で上の身分の者を圧倒する社会的な風潮の中で、それまでの守護に代わって台頭した勢力があります。自らの力で領地を拡大し、独自の法律である「分国法」などを定めて領国を支配したこれらの勢力を何と呼びますか。（2020年 千葉県公立入試 類似）

1. 守護大名
2. 戦国大名
3. 地頭
4. 御家人

答え合わせ・解説

問1	答え 1 ヨーロッパで始まった宗教改革に対し、カトリック教会が勢力を立て直そうとしたため	ルターやカルバンによる宗教改革によって、ヨーロッパ内でのカトリック教会の権威が揺らぎました。これに対抗するため、カトリック側は自己改革を行うとともに、イエズス会などの組織を通じて世界各地にキリスト教を広め、教勢を回復しようとする「対抗宗教改革」の動きを強めました。ザビエルの来日もこの一環として位置づけられます。
問2	答え 1 南蛮貿易による利益を得るとともに、軍事的に有利な鉄砲や火薬などの輸入を円滑に進めるため	当時のキリスト教の布教は南蛮貿易と一体となって行われていました。戦国大名たちは、海外の進んだ技術や富、特に戦術を大きく変えた鉄砲やその原料となる硝石（火薬の原料）を優先的に確保するために、布教を許可して宣教師を優遇しました。
問3	答え 1 鉄砲や火薬などの軍需品を調達する資金や、家臣への恩賞とするため	戦国大名は、自国の軍事力を強化するために多額の資金を必要としていました。特に種子島に伝来した鉄砲やその弾薬となる鉛、火薬の原料となる硝石を海外から購入するための支払い手段として、また功績のあった家臣への報酬として、銀は極めて重要な価値を持っていました。
問4	答え 1 ポルトガル人	16世紀半ばの1543年、種子島に漂着した船に乗っていたポルトガル人によって鉄砲（火縄銃）がもたらされました。この出来事は、その後の日本の戦術や城郭の構造、さらには社会構造そのものを大きく変える契機となりました。当時の日本は戦国時代であり、新しい武器としての鉄砲は各地の戦国大名の間で急速に普及していきました。
問5	答え 1 分国法	戦国大名は、室町幕府の力が衰える中で、自らの領国を独自に統治する必要に迫られました。そのため、家臣同士の争いの禁止や領民の管理、軍役の規定などを定めた「分国法（領国法）」を制定しました。朝倉氏のほか、今川氏の今川俊元目録や武田氏の甲州法度之次第などが有名です。
問6	答え 1 フランシスコ・ザビエル（イエズス会）	16世紀、宗教改革に対抗してカトリック教会の立て直しを目指したイエズス会は、海外への布教活動を積極的に行いました。その創設メンバーの一人であるフランシスコ・ザビエルは、インドのゴアを経て鹿児島に上陸し、日本での布教を開始しました。これが日本におけるキリスト教伝来の始まりです。
問7	答え 1 織田信長が、対立を深めていた15代将軍の足利義昭を京都から追放した	織田信長は当初、足利義昭を擁立して京都に上洛しましたが、後に自らの政策を制限しようとする義昭と激しく対立しました。1573年、信長は義昭を京都から追放し、これにより200年以上続いた室町幕府は実質的に滅亡しました。鉄砲の伝来やキリスト教の布教開始はそれ以前の出来事であり、幕府滅亡の直接的な政治的要因は信長と将軍の対立にあります。
問8	答え 1 実力のある者が、それまで自分より上の身分であった者の地位を奪い取ること	下剋上は、中世から近世へと社会が激変する過程で現れた「実力主義」を象徴する動きです。それまでの家柄や伝統的な上下関係よりも、軍事力や経済力、政治的な手腕が重視されました。これによって、出自が低くても能力があれば一国の主（戦国大名）になれる道が開かれ、織田信長や豊臣秀吉のように、古い権威に縛られない新しい統治を行う勢力が登場する土壌となりました。
問9	答え 2 戦国大名	下剋上の風潮によって、幕府から任命された守護の地位を奪ったり、地域の有力な武士が実力をつけたりすることで新しい支配者が現れました。彼らは自らの力で領国内の家臣や農民を統制し、他の地域と争いながら勢力を広めました。